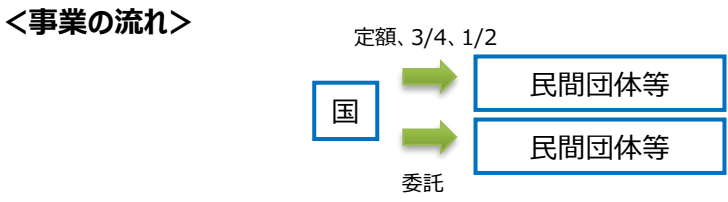


＜対策のポイント＞
内水面漁場を有効かつ効果的に活用する体制の検討と、ウナギ等の内水面資源の回復と適切な管理体制の構築を推進します。また、資源造成・回復効果の高い手法や対象種の重点化を図るとともに、さけ・ますの回復率の向上を図る増殖戦略の策定等の取組を支援します。

＜事業目標＞
主な栽培対象魚種及び養殖業等の生産量の増加（1,713千トン〔平成22年度〕→1,739千トン〔令和4年度まで〕）

- ＜事業の内容＞**
- 1. 内水面漁場・資源管理総合対策事業**
- ① 内水面漁業の持続的な管理の在り方の検討を支援します。
 - ② 内水面漁業者が行うカワウ駆除活動等を支援するとともに、ドローン等を活用した内水面水産資源被害防止のための技術開発を推進します。
 - ③ 内水面漁業者が行う生息環境改善の取組等を支援するとともに、ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証・民間における生産技術の活用等を実施します。

- 2. さけ・ます等栽培対象資源対策事業**
- ① 遺伝子解析による広域種の資源造成効果の検証や適切な放流費用負担体制構築等を支援します。また、漁業者からのニーズの高いキンメダイやアマダイ等の種苗生産・放流技術の開発や資源評価の精度向上に資する標識応用技術の開発を行います。
 - ② サケ種苗の低密度飼育による適正な放流体制への転換や河川ごとの増殖戦略の策定、技術普及の取組を支援します。また、放流後の河川や沿岸での減耗軽減に有効と考えられる大型種苗の飼育技術開発等を行います。



＜事業イメージ＞

1. やるぞ内水面漁業活性化事業

参考：ICTを活用した漁場監視の例

2. 内水面水産資源被害対策事業

カワウの駆除活動

ドローンによるカワウ対策技術開発

3. ウナギ等資源回復推進事業

生息環境改善(石倉増殖礁)

シラスウナギ人工種苗生産民間における生産技術の活用

＜種苗放流による資源造成＞

〔現状〕

種苗放流効果の高い手法

放流の受益と負担の公平化

〔資源造成〕

効果の高い手法・対象種に重点化

回復率の向上

＜増殖戦略の策定＞

Bふ化場

Aふ化場

Cふ化場

これまでの知見を元に、河川ごとの増殖効果を最大化するための計画を策定

【お問い合わせ先】（1の事業）水産庁栽培養殖課（03-3502-8489）
研究指導課（03-3502-0358）
※ ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証のみ
（2の事業）水産庁栽培養殖課（03-6744-2385）